

SNS3700シャーシのRMA後のTPMモジュールのインストール

内容

[はじめに](#)

[考慮事項](#)

[問題](#)

[解決方法](#)

[検証](#)

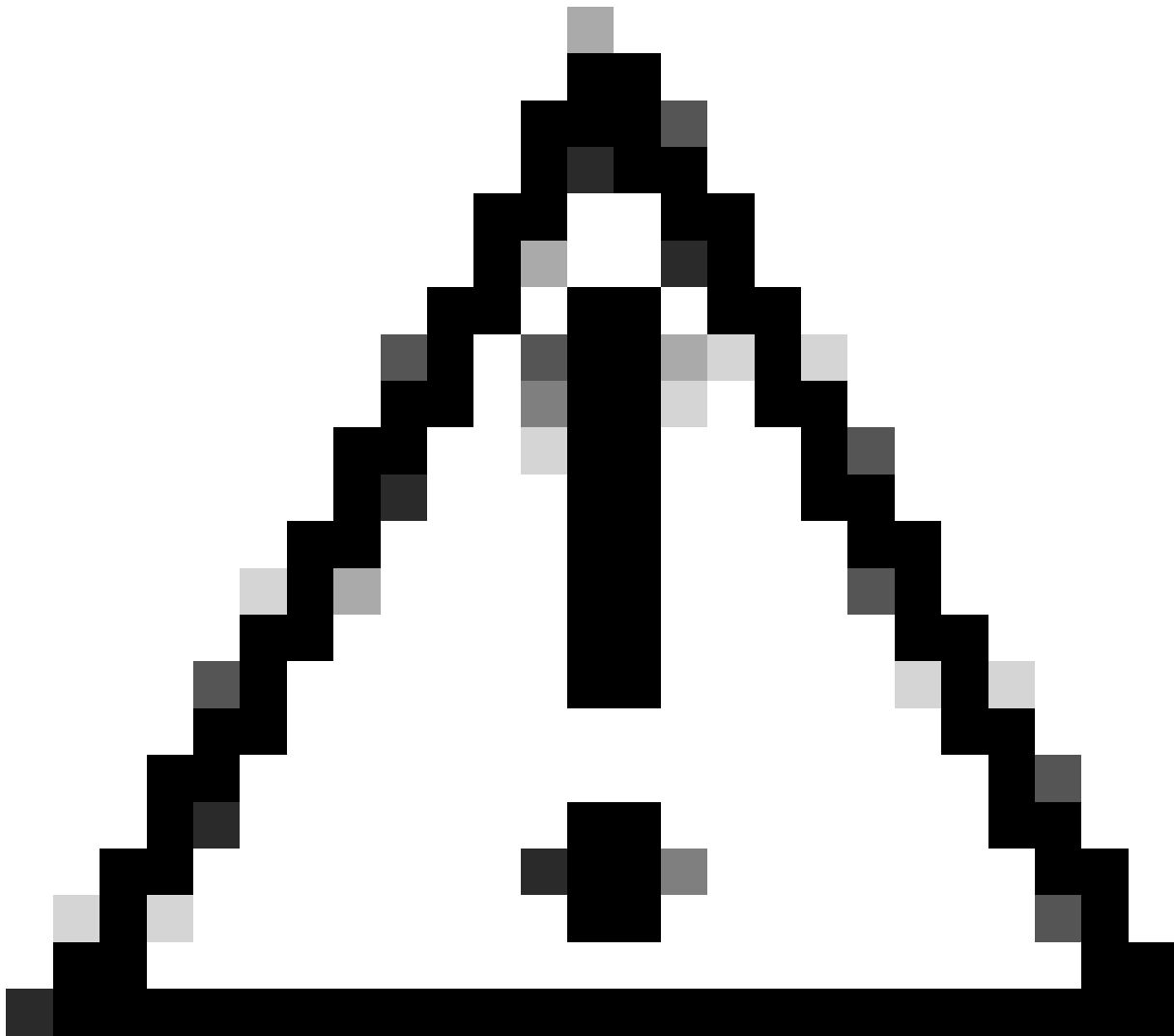
はじめに

このドキュメントでは、シャーシの交換を受けたSNS3700サーバにTPMモジュールをインストールするプロセスについて説明します。

考慮事項

トラステッドプラットフォームモジュール(TPM)は、暗号化キーを格納することでサーバのセキュリティを向上させるハードウェアコンポーネントです。

ただし、サーバはIdentity Services Engine(ISE)をサーバの存在なしで実行できます。



注意: ISEアプリケーションがTPMのないサーバにインストールされ実行されている場合、モジュールをインストールしてシステムで使用できるようにするには、ここで説明するプロセスを実行する必要があります。

- このサーバは、Trusted Computing Group(TCG)によって定義されたTPMversion 2.0(UCSX-TPM-002C)をサポートします。TPMもSPIベースです。
- aTPMのフィールド交換はサポートされていません。TPMは、サーバーにTPMがまだインストールされていない場合にのみ、出荷時にインストールできます。
- aTPMを搭載したサーバーが返された場合、newTPMを搭載した交換用サーバーを注文する必要があります。
- TPM2.0が応答しなくなった場合、サーバをリブートします。

問題

シスコの製造部門から出荷されたSNS 3700シリーズ以上にはTPMが含まれています。

ただし、Cisco Service Depotsから出荷されたSNS 3700シリーズのシャーシ交換には、このようなデバイスは含まれていません。

次のプロセスを実行して、TPMをインストールし、ハードウェアとソフトウェアの両方でモジュールの利点を活用できるようにする必要があります。



画像 1.SNS 3700シリーズアプライアンス内のTPMモジュールの場所

解決方法

次の手順を所定の順序で実行して、モジュールをインストールし、初期化して、モジュールが提供するセキュリティ機能を利用します。

1. TPMHardwareをインストールします。
2. BIOSでTPMを有効にします。
3. ISEを再インストールします。

この記事を使用して、ステップ1、2、および3を完了します：[Cisco UCS C220 M6サーバインストールおよびサービスガイド－サーバの保守](#)

BIOSの章の「TPMの有効化」の手順を完了すると、プロセスは終了します。

ステップ4を完了するには、次のリンクに移動し、サーバにインストールする必要があるISEバージョンのインストールガイドにアクセスします。

[インストールおよびアップグレードガイド－Cisco ISEのインストール](#)

インストレーションガイドが表示されたら、「Cisco ISEのインストール」セクションに移動します。

検証

この手順を完了した後、ISEをインストールして実行する必要があります。

ISEコマンドラインを開き、次のコマンドを実行します。ここに示されている出力は、TPMが正しくインストールされていることを意味します。

```
ISE/user#show tech-support | include TPM
```

TPM : モジュールが存在します

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。